

スクールカウンセラーの歴史

——その導入以前の臨床心理学の歴史——

法政大学社会学部兼任講師 安齊 順子

筆者はこれまで、歴史的論文の発掘により、心理学の歴史を書く作業を続けてきた。現在法政大学にて、担当している科目名は『教育心理学』であるが、その理由は筆者が長くスクールカウンセラー活動をしてきたことによる。今回はすでに学校現場において25年以上、四半世紀以上実施されてきたスクールカウンセラーの歴史について改めて紐解き、記載することを本稿の目的とする。

1. スクールカウンセラーが学校に導入されたのは1995年である。当時の文部省（現文部科学省）が「スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」を立ち上げ、全国154校にスクールカウンセラーを派遣したことから始まる。

文部科学省はそのホームページで「近年のいじめの深刻化や不登校児童生徒の増加など、児童生徒の心の在り様と関わる様々な問題が生じていることを背景として、児童生徒や保護者の抱える悩みを受け止め、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、臨床心理に専門的な知識・経験を有する学校外の専門家を積極的に活用する必要が生じてきた。このため、文部科学省では、平成7年度から、「心の専門家」として臨床心理士などをスクールカウンセラーとして全国に配置し（平成7年度 154校）、その活用の在り方について実践研究を実施してきた。」と記載している。

平成7（1995）年の東京都の最初のスクールカウンセラー4名のうちの一人、鶴飼啓子は、当時東京臨床心理士会の担当理事であった滝口俊子に依頼され、人選も行い、自分も東京都のスクールカウンセラーになったと証言している。当時は急に予算が増やされたが、自分は私立高校のスクールカウンセラーをしていたが、こんなにスクールカウンセラーがブームになるとは思わなかった、と証言している（津川他、2007）。本論では、時間を遡り、1995年以前の日本のカウンセリングについて振り返る。スクールカウンセラー活動の開始前には日本には「日本カウンセリング学会」という学会が存在した。以下日本のカウンセリングの歴史と関連する団体について記載する。

2. 日本のカウンセリングの歴史について

日本にロジャーズのカウンセリングを最初に広めたのは伊東博であり、伊東は1949（昭和24）年に渡米

しミズーリ大学大学院にて「カウンセリングとガイダンス」を専攻し、修士号を得た。その後帰国し、カウンセリング関係の著作を多く刊行した。武田健（関西学院大学教授）は1966（昭和41）年発行の『カウンセリングの理論と方法』の中で「1956年、著者が留学の途についたころ、我が国にはカウンセリングに関する著作は数えるほどしかなかった。しかし1962年に帰国してみると書店にはカウンセリングのテキストが数多く並び、多くの講習会が開かれ、カウンセリングの発展を心強く感じたものである。」と述べている。この時期の重要な出来事は、茨城キリスト教短期大学のローガン・J・フォックスに促されて、ロジャーズが1961（昭和36）年に来日し、法務省、日本産業訓練協会、茨城キリスト教短期大学、京都大学などでワークショップを行ったことである。他に、1955（昭和30）年には友田不二男が「第1回カウンセリング研究討論会」（別名「大甕ワークショップ」）を開始している。友田は1951（昭和26）年にロジャーズの著作を翻訳している（安齊、2006）。

3. 日本カウンセリング学会について

田中熊次郎（1997）によれば、戦後の日本にはカウンセリングとして厚生補導（SPS）が紹介された、とくに大学でのカウンセリング、学生相談の領域にカウンセリングが求められた。1960年に日本応用心理学会内に相談部会が設立された。当初は日本相談学会（仮称）という名称であった。東京教育大学内の教育相談研究施設の長であった田中熊次郎が事務局長となった。御茶ノ水女子大学の松村康平教授が手伝いを申し出た。創立総会は東京教育大学にて1967年（昭和42年）6月に行われた。1967年8月アメリカのウィリアムソン博士を招聘し、日本のカウンセリングの普及発展を願い、講演を実施していただいた。

その後、1987年（昭和62）年5月に日本カウンセリング学会に改称し、同5月25日に国に対し、大学院修士課程におけるカウンセラー養成の要望を行った。

日本応用心理学会についてであるが、『日本応用心理学会史』（1998）によると、1954（昭和29）年に応用心理学会では、「産業心理部会」「犯罪心理部会」「教育心理部会」「臨床心理部会」の4部会制がスタートし、当時は「臨床心理部会」の代表者は鈴木清であっ

た。この「臨床心理部会」と「相談部会」の関係はわかっていない。

鈴木清の『最新相談心理学』（1968）によれば、日本応用心理学会の中に「相談部会」が生まれたのは1961（昭和36）年であり、1967（昭和42）年に「日本相談学会」が設立したことを述べている。この学会が「日本カウンセリング学会」となり、雑誌名も『カウンセリング研究』となった（1987年10月より雑誌名は『カウンセリング研究』第20巻第1号として刊行されている）。学会ホームページによれば、現在の会員数は約3,500名とのことである（2023年12月調べ）。

4. 「教育相談」という用語について

ここで、1997年に日本カウンセリング学会で行われたシンポジウム「学校における教育相談」の中の手塚光善の発言を紹介する（手塚、1997）。「1960年半ばから約10年間、教育相談の盛んな時期があったが、結局学校現場への定着は図られなかった」「教師が二足のわらじを履く形で、、、学校内部から排除作用が起こり、、、」とあり、ある時期学校内部で教育相談を行おうという機運があったが、学校内部から排除作用が起こったことが述べられている。手塚「教師が学校と言う場で教育相談の専門性を闇雲に深めることはともすると教師としてのアイデンティティを揺るがす」と述べ、二足のわらじの危険性に触れている。日本においては、カウンセリングは教育の場（まず大学）に導入されたが、教師が研修を受け（内地留学で大学院、あるいは県の総合教育センターで教育相談の研修を受ける）カウンセリングを行う形がかつては一般的であった。その研修後、学校現場に戻った時にカウンセリングを実施しようとする、先の排除作用が起こることが述べられている。日本カウンセリング学会に所属したのは教師ばかりではないが、「カウンセラー」として学校に採用されている人がいない時代には、教師が「カウンセラー」の役目を果たすしかなく、またその試行錯誤が続けられていた。

5. 日本心理臨床学会とはなにか

スクールカウンセラー事業において指名された「臨床心理士」の資格に主に関わっている、日本心理臨床学会について解説する。この学会は1982年（昭和57年）に九州大学で第1回が実施されている。そのルーツは、1978年の日本心理学会第42回大会が九州大学で行われ、その時の『心理臨床家の養成・資格問題』に関するシンポジウムで田畑治は「大学の養成の立場」から発言し、その学会内で「心理臨床のタベ」という会合が持たれた。1981年（昭和56年）には滋賀県大

津市ホテル紅葉で「心理臨床研究集会」がもたれ、この会合が学会設立の機運となった。

その後6年間の検討をへて、1988年（昭和63年）3月8日「日本臨床心理士資格認定協会」が設立された。日本学術会議の承認する学術団体として成立をみている日本心理臨床学会等、日本の臨床心理学に関連する学会16団体からの基金の拠出により「日本臨床心理士資格認定協会」が設立されたのであった、日本心理臨床学会が単体で作った資格ではなかった。

この団体の起源となっている研究グループは、1977（昭和52）年に誠信書房から河合隼雄、佐治守夫、成瀬悟策の三名が著者である『臨床心理ケース研究1』が刊行されているが、この三名とその協力者、事例提供者などであると考えられる。日本心理臨床学会の会員数はホームページによれば2018年の段階で約29,000人である。

6. スクールカウンセラーの役割

再び、文部科学省ホームページによれば、「スクールカウンセラーは、1～7のような児童生徒が抱える問題に学校ではカバーし難い多くの役割を担い、教育相談を円滑に進めるための潤滑油ないし、仲立ち的な役割を果たしている。

（1）児童生徒に対する相談・助言（2）保護者や教職員に対する相談（カウンセリング、コンサルテーション）（3）校内会議等への参加（4）教職員や児童生徒への研修や講話（5）相談者への心理的な見立てや対応（6）ストレスチェックやストレスマネジメント等の予防的対応（7）事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケア

スクールカウンセラーが相談に当たる児童生徒の相談内容は、不登校に関するものが最も多いが、いじめ、友人関係、親子関係、学習関係等多岐にわたっており、近年は、発達障害、精神疾患、リストカット等の自傷やその他の問題行動などますます多様な相談に対応する必要性が生じている。」

このように述べられている。また、教育相談を円滑に進めるための役目を果たしているとされている。また、発達障害、精神疾患、リストカットなどの複雑な事象に対応することも明記されている。精神疾患やリストカットへの対応は、臨床心理学ないしは精神医学の知識や経験が必要となり、かなり専門的な仕事である。スクールカウンセラーに採用されるものの資格であるが、以前は臨床心理士がその中心であったが、2018年よりは「公認心理師」がその資格の筆頭に位置付けられた。

これまで日本のカウンセラー資格では、大学院修士課程修了を義務付けた「臨床心理士」の活動が中心的

と考えられてきたが、2018年秋に国家資格である「公認心理師」の第1回試験が行われた。その後継続して年1回の試験が実施されている。四年制大学において、公認心理師受験資格要件を満たす「大学における必要な科目」の単位をすべて修得し卒業した上で、大学院において「大学院における必要な科目」の単位をすべて修得して修了、あるいは、「法の規定する認定施設」にて2年の実務経験を経て試験に合格した者が資格を保持する。この公認心理師の誕生により、医療現場では、「心理検査」の保険診療点数化が促進され、精神科や総合病院での公認心理師の雇用も、今後より増加する可能性が高い。法政大学では現代福祉学部で過去15年以上、臨床心理士の養成が現在に至り続けられており、公認心理師受験要件を満たすための授業と教育も行われている。

スクールカウンセラーの歴史は日本におけるカウンセリングの歴史の中で重要なターニングポイントであるだけでなく、カウンセラーの資格の変遷にも関わる重要な問題である。

7. 『臨床心理学』のテキストから

藤永保・三宅和夫・山下栄一・依田明・空井健三・伊沢秀而編、『臨床心理学』（テキストブック心理学（7））（1979・昭和54）によると、対象別に見た心理臨床の章では「精神薄弱」「情緒障害」「犯罪・非行・嗜癖・自殺」「精神病」と分類されている。子供の不登校などはあえて言えば、「情緒障害」に分類されるだろうか。子供の情緒の不安定、情緒の未発達を想定されている分類である。臨床心理学の対象として「精神病」があり、これは現在でいうところの統合失調症などが想定される。1979（昭和54）年はまだ臨床心理士の資格認定がなされていないときであり、日本の心理士についてテキストでは触れられていないが、臨床心理学の範疇として「精神病」が記述されているのはおそらく、アメリカの臨床心理学のテキストを参考にしているからだと考えられる。この時期の精神医学の分類法は、まだDSMとその翻訳が現れていない時期であり、心因、内因、外因の精神病分類法が用いられていた時期である。このテキストは先にのべた河合隼雄、成瀬悟策も執筆しており、ここで想定されている「臨床心理学」をベースにその後の資格が検討されていったと想定される。テキストブックの序文には「とにかく、我々は臨床心理学の“教科書らしい教科書”が欲しかった」とあり、それまで翻訳などで紹介されていた臨床心理学が各大学の授業として徐々に開講され、テキストが必要となった流れが述べられている。

8. まとめ

これまで述べてきたように、スクールカウンセラーの導入以前に日本にはカウンセラーの歴史、臨床心理学の歴史が存在していた。一見教育の世界では「異質」であり「黒船」のように言われていたスクールカウンセラーではあるが、日本における特に小学校中学校高校時代の子供の心理的発達、その臨床心理的問題についての研究や実践が、一例として「情緒障害」研究として行われてきたことが背景として認められた。また、スクールカウンセラー導入時期のころの教師カウンセラーの悩みとして、「教師とカウンセラーの二足のわらじ」が大変であること、教師が「カウンセリング」を学ぶと現場からの「排除」が行われることなどが挙げられていた。

これまで筆者が過去に論文として記載してきた教育心理学の歴史との関係はいまのところ判然としない。大きくは心理学のカテゴリー内部にあるが、臨床心理学と教育心理学は科目名が異なり、教育心理学は明治時代からの歴史を持つが、臨床心理学という科目の紹介と発展は第二次世界大戦後である。カウンセリングの学会については、応用心理学会が関係を持っているが、この連続性を記載することは今後の課題とする。スクールカウンセラーの制度が実際に運用されていく中で、臨床心理士や当時カウンセラーとして働いていた人々はいかにして教育現場に慣れ、実践を繰り広げていったのか。それについての文献史的検討は今後の課題とする。

文献

- 安齊順子・鈴木朋子・中谷陽二 2006 第二次世界大戦後の日本臨床心理学の萌芽—鈴木清を中心に—心理学史・心理学論、Vol7・8合併号、25-37。
- 藤永保・三宅和夫・山下栄一・依田明・空井健三・伊沢秀而編 1979 臨床心理学 有斐閣
- 伊東博 1963 カウンセリング入門改訂版 誠信書房
- 河合隼雄、佐治守夫、成瀬悟策編 1977 臨床心理学 ケース1 誠信書房
- 日本応用心理学会（編）1998 日本応用心理学会史—学会活動の変遷 回顧と展望
- 鈴木清（編）1969 最新相談心理学 文教書院
- 田中熊次郎 1997 「カウンセリング学会の歴史(初期)」カウンセリング研究、第30巻第3号 p307-314。
- 武田健 1966 カウンセリングの理論と方法 理想社
- 手塚光善 1997 「学校教育において教育相談とはなにか」(シンポジウム 学校における教育相談—教師の使えるカウンセラー—平成8年12月15日国立教育会館) カウンセリング研究、第30巻第1号、p69。

津川律子・安斉順子編 2007「インタビュー臨床心理
士2」(3) 鶴飼啓子 (p45-73) 誠信書房